第６２回えいが部「エール！」(2014 年)

フランスの田舎町。農家を営むベリエ家は、高校生の長女ポーラ以外、父も母も弟も聴覚障害者。ミスコンで優勝したこともある美しい母、ロ（手話）は悪いが熱血漢な父とゲーム好きの弟。
オープンで明るく、仲のいい家族だ。ある日、ポーラの歌声を聴いた音楽教師トマソンはその才能を見出し、彼女にパリの音楽学校のオーディションを受けることを勧める。夢に胸をふくらませるポーラだったが、彼女の歌声を聴くことができない家族は、彼女の才能を信じることもできず、もちろん大反対。一家の「通訳」でもあるポーラは悩んだ末に、夢をあきらめる決意をする。
しかしその歌声が、耳の聴こえない家族に届く出来事が起こる

監督：エリック・ラルティゴ
・ビッグ・ピクチャー　顔のない逃亡者』(2010)
・プレイヤー(2012)　ジャン・デュジャルダン主演

出演　ルアンヌ・エメラ
フランスのコミューンエナン＝ボーモン生まれ[1]。2008 年にフランスのテレビ局 Direct8 で放送された音楽オーディション番組『L'École des stars』に参加[2]。その数年後、2013 年に放送局 TF1 で放送された音楽オーディション番組『The Voice: la plus belle voix』のセカンドシーズンに出場、人気を得る。本番組で注目を集めたため、プロ歌手デビュー、それに加え役者デビューも果たすことになる。
役者デビュー作となる 2014 年に公開のフランス映画『エール!』で演技を絶賛され、セザール賞やリュミエール賞を受賞する。2015 年 3 月 2 日にマーキュリー・レコードからデビュースタジオアルバム『Chambre 12』をリリースし、フランス語圏を中心に売れる。フランスのアルバムチャートでは第 1 位を獲得、フランスの全国音楽出版組合よりダイアモンドディスク認定される[3]。さらに本アルバムからのリードシングル「Avenir」はフランスのシングルチャートで第 1 位を記録している[4]。
日本では、アーティスト名はルアンヌとして、『Chambre 12』は『夢見るルアンヌ』のタイトルでユニバーサルミュージックから、2015 年 10 月 23 日に発売。映画『エール!』も 2015 年 10 月 31 日に公開

カリン・ヴィアール
・デリカテッセン Delicatessen (1991)
・お気に入りの息子 Le Fils préféré (1994) フランス映画祭上映
・ヌーヴェル・イヴ La nouvelle Ève (1999) フランス映画祭上映

・キスはご自由に Embrassez qui vous voudrez (2002) フランス映画祭上映
・斧 Le Couperet (2005) フランス映画祭上映

＜コーダとの違い＞
① 仕事が酪農から漁師に
漁師だと、船に乗っているとき、無線が入るんですね。だから、聞こえる人がいないといけない。あと、作業をしていると他の船が近づいてきても気づかない。
ルビーがいないといけない状況が強くなります。
② 弟から兄に
主人公への関わり方、物語の中での役割も変わっていたと思います。
兄になって、「家族の犠牲になるな」と、ルビーに強く訴えかける、兄なりの形でルビーの背中を押す存在に。
③ 湖で崖から飛び込むシーン
これは『コーダ』オリジナルでした。
ルビーと彼の 2 人だけのシーンでこの湖が設定されて、2 人の距離が近づいたのがより観客にわかるのと、
飛び込むことで、ルビーが勇気を出して、物語の中で進んでいくのを感じられます。
④ ラストシーン
別れを告げて去っていくとき、車から降りて、家族のもとへ走って戻り、４人でハグするのは同じでした。
そのあと一番最後、『エール！』では再び行き先を向いて走っていく、希望に満ちた表情で終わるのですが、
『コーダ』ではルビーは車の助手席から後ろの家族のほうを向いていて、「愛してる」の手話を向け続けて終わります。
すごいのが、画（え）としては後ろを向いているけど、完全に前を向いているんですよね。
⑤ 同じシーンでも画が違う
そりゃ役者さんも場所も違えば画が変わるのは当たり前、と思われるかもしれませんが、これで刺さり方が結構ちがいました。(わたしの個人的には)
なんというか、『コーダ』は、よりドラマチックな画だったように感じます。
グッとくるようなシチュエーションには変わりないのですが、
例えば、発表会の夜、ルビーが父に歌うシーン。父がルビーの喉元に手を当てて、懸命にルビーの歌を聴こうとする。『コーダ』では、お互い向き合って、視線があって、少しも逸らさずに見つめ合っていたのが、一層、記憶に残ったのです。
試験会場で、家族へ手話をして歌うシーンも、『コーダ』では審査員のほうは見ず、ただ真っ直ぐ、ずっと家族に向かって歌っていたと思います。